

12月	・「非違行為の根絶に向けて」事例8(酒気帯び運転)をもとに、小集団で話し合う。	年末であり飲酒の機会も多いので今回の研修を受けて体内に酒が入ったら、残っていたら運転しない。飲酒運転により、被害者、自分の家族を苦しめることは不幸なことであることを再確認した。						1	1		
1月	・「非違行為の根絶に向けて」事例6(体罰)をもとに、小集団で話し合う。・校長による聞き取り調査。	自分の思い通りに子どもが動かないときや、子どもの態度が気になるときは感情的にならずに、落ち着いてきちんと指導することを確認した。また、暴言も体罰と同様に許されない行為である。							1	1	
2月	校長会からの体罰事例の資料をもとに、小集団で話し合う。	体罰を防ぐには心のゆとりが必要。アンガーマネジメント(2秒待つ)で心のコントロールをしていく。同僚性を発揮して互いの言動で気になることはきちんと伝えていく。						1	1		
3月	・「非違行為の根絶に向けて」事例8(酒気帯び運転)をもとに、小集団で話し合う。	年度末に飲酒の機会が多いが、飲酒前に必ず帰宅方法の確認を行い、翌日の出勤は公共交通機関を利用することを基本にすることを確認した。							1		
			合計	21回	0	1	2	1	3	9	5

○実施した研修に対する非違行為防止委員(第三者の委員)の感想

- 夏休み中の研修と一緒に参加させてもらったが、とてもいい雰囲気で行っていて良かった。上からの押しつけでやらされているというのではなく、必要感を職員が感じながら実施していくことを大切に続けて行って欲しい。
- 新しい年度に入り、職員が替わったらまた共通理解をして進めて行って欲しい。職員の間関係が出来てきた一学期末か夏休みになると良い雰囲気の中でロールプレイ等を取り入れた研修が可能になるので、時期による内容を考えて計画して欲しい。
- 名刺サイズのカードに代行業者を書きおいたり、スピード違反の罰則等を書いておいて配るといった細かな努力が大切。先生方に受け入れられるように工夫を重ねて行って欲しい。

※適宜追加してください。記入できない場合などは、資料を添付してください。

